

令和6年度 きのくにコミュニティスクール座談会

趣 旨：市町村教育委員会が、きのくにコミュニティスクールの仕組みを生かした学校運営や推進の方策について、協議・情報交換を通して一層理解を深め、所管する学校の学校運営協議会及び地域学校協働活動等に対する実効性のある伴走支援体制の構築を図る。

テーマ：『学校と地域をつなぐキーパーソン』

対 象：各教育委員会コミュニティ・スクール担当者（学校教育課・社会教育課から担当者の出席を依頼）

会場等

	紀北会場	紀南会場
開催日時	令和7年2月10日（月）14：00～16：00	令和7年2月12日（水）14：00～16：00
開催市町村	岩出市	田辺市
会 場	旧和歌山県議会議事堂	秋津野ガルテン
参 加 者	20名 （和歌山市、海南市、橋本市、有田市、御坊市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、湯浅町、有田川町）	27名 （橋本市、田辺市、新宮市、岩出市、日高町、由良町、印南町、白浜町、上富田町、すさみ町、太地町、みなべ町、古座川町、北山村、串本町）
参加CSマイスター	大谷 裕美子 氏、音無 長裕 氏 下田 喜久恵 氏、中谷 有美子 氏	大谷 裕美子 氏、音無 長裕 氏 下田 喜久恵 氏、中谷 有美子 氏



事例発表内容

発表者：木下 豪人 氏（橋本市教育委員会 生涯学習課 社会教育主事 兼 学校教育課主幹・主任指導主事）

【現状の組織構成】

- ・コーディネーター14名を各小学校（14校）に配置、中学校（5校）は小学校と兼任で配置
- ・メンバーは（元教職員、元市職員、家庭教育支援チーム、図書ボランティア、放課後子ども教室コーディネーター及びサポーターに委嘱

【コーディネーターの役割】

- ・地域に対して → 学校（担任、学校運営協議会等）の思いに応える。
- ・学校に対して → 地域（地域の活性化、防災等）の思いを伝える。

【コーディネーターがいることのメリット】

- ・学校側 → コーディネーターが地域の窓口となり、先生と地域がつながりやすい。『授業づくりやこどもと関わる時間に余裕ができる。』
- ・地域側 → 学校の敷居が下がり、出番が増える。『生きがいつくり、新たな地域のつながり発見』
- ・こども → 地域の多くの「まなざし」を浴びて育つ。『多様な人との関わりの中で「恩送り」を学ぶ。』
- ・行政側 → 教育委員会の思いを、ゆる〜く委員に伝えていただける。『実効性のあるきのくにコミュニティスクールに』

研修会内容

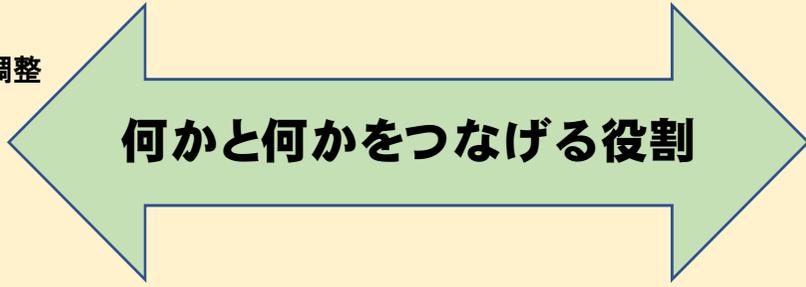
講師：大谷 裕美子 氏（和歌山県CSマイスター）

【地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の役割】

- ・企画・立案 → 地域や学校の実情に合わせた地域学校協働活動の企画・立案
- ・連絡・調整 → 学校や地域住民、民間企業・団体・機関等の関係者との連絡・調整
- ・募集・確保 → 地域ボランティアの募集・確保
- ・事務・経理 → 地域学校協働本部の事務処理・経理処理
- ・情報提供 → 地域住民への情報提供・助言・活動促進

【地域学校協働活動推進員（コーディネーター）はどんな人？】

- ・社会的信望があり、地域学校協働活動推進に熱意と識見をもつ人
- 例えば → こどもたちの状況を理解できる人、学校の現状を理解できる人、* 地域の実情を把握できる人、コミュニケーション力のある人



何かと何かをつなげる役割

情報交換

県内のコーディネーター事情

※模様

- ※各校にコーディネーターを配置している。
- ※域内でコーディネーター研修会を開催している。
- ※地域のボランティアが活躍している。
- ※熱心な教育委員会担当者や校長がいるので進んでいく。
- ※委嘱はしていないが、元教員、元公民館職員が取材・広報・学校の困りごとに協力してくれている。

☂模様

- ◇コーディネーターがいる地域
 - ☂コーディネーターの高齢化
 - ☂コーディネーターの世代交代（担い手問題）
- ◇コーディネーターがいない地域
 - ☂謝金の問題
 - ☂地域の教育力低下
 - ☂コーディネーターの存在はもちろん言葉すら知らない人が多い。
 - ☂学校の敷居が高い。
 - ☂コーディネーター役は行政が担っている。
 - ☂コーディネーターをお願いしたい人にはすでに多くの肩書が…
 - ☂他の教育問題が優先的となり、CS関係は優先順位が低くなり手が回らない…
- ◇コーディネーターの見つけ方
 - ☞ボランティアの中から！
 - ☞イベントなどによく顔を出す人から！
 - ☞既存の地域学校協働活動に関わる人から！
 - ☞公民館職員から！





情報交換の中から

- ☞ 学校が荒れているときこそ、学校と地域と一緒に考えられる体制が必要
- ☞ 学校は地域に頼る発想が貧しい。
- ☞ 地域が得意な先生と、地域が苦手な先生がいる。
- ☞ 社会教育の力がある地域をつくるのが大切
- ☞ 町（校区）が小さいほどつながりは強い。
- ☞ コーディネーターがいれば、人（教職員）が代わってもつながりは続く。
- ☞ 公民館とのつながりづくりを行政職員が率先して行うことが大切
- ☞ 学校づくりは地域づくり『ちょっと学校見に行きませんか？』
- ☞ ボランティアが多くいる学校は色々できる可能性が高い。

CSマイスターから

- ・ コーディネーター候補者には、はじめのうちは協働活動員として、学校や地域のお手伝いを依頼し、徐々に、責任ある役をしてもらいながら、3年ぐらいかけて地域のコーディネーターになってもらう形が良いのでは。
- ・ コーディネーターの見通しが立ちにくいのは、本当にその通り。でもだからといって、そこで終わりにしないで欲しい。
- ・ コーディネーターがいなくても、何とかやれているということは、誰かがどこかで無理をしているはず。それが学校の管理職であるケースが多い。
- ・ 各学校の実情、コーディネーターの有無等について、もう一度、確認が必要
- ・ この研修の中で、地域のコーディネーター候補者を具体的に考えるワークシートがあったことが良かった。
- ・ コーディネーターを見つけるためには、社会教育と学校教育の両面からの取組が必要
- ・ 「何とかしなあかん！」と考えることは、変化に結びつく。



参加者アンケート

○令和6年度中に取り組みたいこと

- ・学校教育課と社会教育課の情報共有
- ・コーディネーターの周知
- ・コーディネーターの候補者についての検討
- ・コーディネーターの選出
- ・コーディネーターの後継相談
- ・学校がコミュニティ・スクールに期待する内容の把握
- ・課題の洗い出しと整理
- ・令和7年度のグランドデザイン作成に向けての協議

○令和7年度に取り組みたいこと

- ・コーディネーター候補を学校、学校運営協議会とともに発掘
- ・コーディネーター候補への打診（声かけ）
- ・各学校（地域）へのコーディネーターの配置
- ・コーディネーターの委嘱
- ・次期コーディネーターの育成（後継者探し）
- ・コーディネーター研修会の開催
コーディネーター研修会の開催
- ・学校と地域が一体となった防災学習
- ・学校と地域でのSDGSの活動
- ・行政担当者としての見識を深める。
- ・学校運営協議会委員対象の研修会
- ・教職員への周知
- ・コーディネーターの活動をCS広報誌に掲載することで、地域住民への周知
- ・コーディネーターの位置づけの明確化